

第5回 向日市子ども・子育て会議 議事要点録

○日 時 平成26年12月19日（金）

○場 所 向日市中央公民館3階 第5会議室

○出席者 （委員）

安藤和彦委員（会長）、今井弥生委員、大嶋一恵委員、風谷千賀子委員、
川原真理子委員、小西麻子委員、櫻井成委員、田中益一委員、築山剛委員、
津田陽委員、花安肇委員、宮地健一委員、山近勤委員
（50音順）

（事務局）

子育て支援課：植田部長、鈴木次長、坂野課長、野田主幹、紺野子育て支援係長、
里見保育係長、櫛山主査
生涯学習課：野田部長、山根次長、清水次長、高岸係長

○欠席者 （委員）

青木委員、岡崎委員、高橋委員、高山委員、田中久美子委員、田中利和委員、
三沢委員

○内容

- （1）保育の必要性の設定及び保育下限時間の設定について
- （2）向日市子ども・子育て支援事業計画について（第1章～第3章：素案）

議事1 保育の必要性の設定及び保育下限時間の設定について

（特に意見なし）

議事2 向日市子ども・子育て支援事業計画について（第1章～第3章：素案）

（主な意見）

- 幼稚園に通っている層もかなりあるが、保育所に比べて幼稚園には公的な負担が少ない。
認定こども園の主眼は、幼稚園と保育所の枠を取り払って、0歳から5歳までの子を平等に支援していこうということであり、援助体系そのものを見直していかなければならない。
- アンケートの中で、向日市には自然が多いという意見と少ないという意見が半々になっている。これは、おそらく中心部には緑が少なく、大原野に近い西部地域には緑が多いため、明らかにその差が出ているということであり、中心部における充実を図らなければならない。
- 現状では、子どもの遊ぶ公園よりは、おそらく老人たちが使う公園の方が多くなっている。子育てを念頭に置く時は、子どもたちが遊びやすい公園を作らなければならない。0歳から1歳でも遊べるとか、ボール遊びが出来るといった、子どもに対応した公園整備が問われている。

- 以前住んでいたところは大きな公園が近くにあったが、向日市に引っ越してきて、公園が近くにないと感じている。お寺など文化的なものは多いが、子どもがのびのびと遊んだりスポーツしたりする施設が向日市にも出来てくれたらいいと思っている。
- 子どもの健全な心は遊びの中で育まれる。きれいな公園は要らず、遊具を買う必要もないので、昔の空き地のような、知恵や遊び心が育まれるような遊び場があるとよいと思う。
- 今は、地域の絆が切れている。その絆を繋げる作業は行政がしなければならない。集まれる場所という点で、公民館や子育て施設と同様、公園の役割は大きい。子どもたちのためだけでなく、子どもを通じて近所が繋がっていくという発想が大事であり、そのために何をするかだ。
- 国は、専業主婦をやめて働けと強く言うが、子育てに専念している層に対しても援助は必要であり、従来からの幼稚園の文化、機能は守っていかなければならない。
- 幼稚園で役員をしており、子どもと関わる機会が増えたり、先生方と話す機会が増えたりして、学ぶことが多くあったが、ごく一部の母親がいくつも役を持つという状況になっており、手伝っていただける方が本当に少ない。これをたくさんの方にしていただけるようにすることが、活動する上での課題だと思う。
- 近所の公園のブランコについて、安全面から、二つあったブランコが一つになってしまった。取り合いになって喧嘩してしまうことがある。勿論安全性も大切だが、みんなが長く楽しんでいた遊具が段々使えなくなっている状況は、親としては淋しい。
- 小さな公園はたくさんあるが、木が生い茂って整備が行き届いておらず、乳幼児が遊べないようなところが多い。大きな公園ではテニスをしていたり、ゲートボールをしていたりなど、お年寄りばかりが目立つ。時間制限で子どもたちが遊ぶなどさせてもらえないものか。
- シルバー人材センターの仕事として、樹木の剪定や掃除といったジャンルのほかに、子どもたちに木工やけん玉を教えたり、畑の土いじりを一緒にするようなことはできないか。保育所や幼稚園では保育や教育の内容に食育的な内容として盛り込まれるかもしれないが、未就園の子どもたちが土を触って額に汗して、その中で作物の命を育て収穫して尊さを知るといったことも考えられる。シルバー人材センターとのマッチングのようなことができればと思う。
- 親同士の交流を作することは、重点項目にすべきことのひとつだ。施設を作るということではなく、既存の場所で親同士の交流の場を作ってくれるところは援助しようという発想でまとめてはどうか。顔と顔を合わせて繋がれるような場所作りは、重点項目として挙げるべきだ。

以 上